



あおやま



家庭数

平成28年度 全国学力・学習状況調査の結果の報告と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」については、平成28年4月19日(火)に、6年生を対象として、「教科(国語・算数)に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

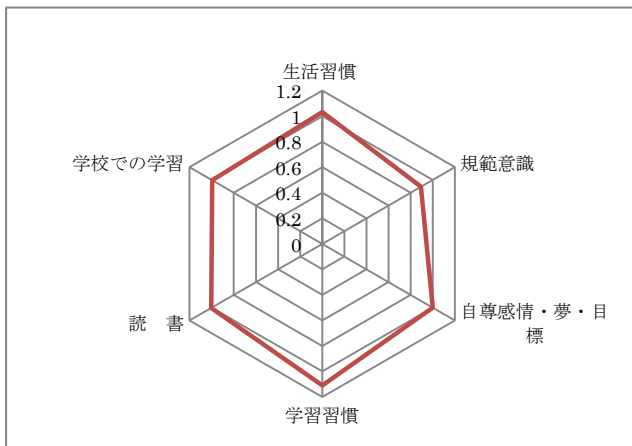
この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。

学力の定義や捉え方は様々であり、一概に論じることができません。この学力調査もそのときの学力の一部を表しているに過ぎませんが、この結果も客観的な指標の一つであると考えます。本校では調査結果も重視し、今後も効果的な指導や学力向上につながる教育活動が実践できるように努めてまいります。ご家庭でも家庭学習チャレンジハンドブックなどを参考にされ、お子様の学習をご支援いただけましたら幸いです。

1. 教科に関する調査結果の概要

カテゴリー	学力調査の分析(傾向や特徴)	全国平均正答率との比較
国語A	<ul style="list-style-type: none"> 全体的には全国平均正答率をやや下回っていたが、話すこと・聞くことに関する基礎はできていた。 漢字の読み書きやローマ字の定着に課題があり、習熟を図る必要がある。 	下回っている
国語B	<ul style="list-style-type: none"> 今年度は全国平均正答率を上回った。書く能力が伸びている。 相手の意図を理解したり、グラフから分かったこと書いたりする能力は高いが、自分の考えを書く問題に、課題が残った。 	上回っている
算数A	<ul style="list-style-type: none"> 全国平均正答率を下回っており、図形や単位量当たり問題に課題が残った。 小数の計算や、三角形の底辺に対応する高さを選ぶなど、基礎的・基本的な問題に課題がある。基本的内容の復習を行い、定着を図る必要がある。 	下回っている
算数B	<ul style="list-style-type: none"> 全国平均正答率をやや下回っており、数量や図形についての技能を問う問題に課題が残った。 基礎的な内容を問う問題に比べて、応用的な内容の問題の方が正答率が高くなる傾向が見られ、考える力がついてきている。 	下回っている

2. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する調査結果の概要



質問紙調査の結果分析

- 自分にはよいところがあるという自尊感情が高く、将来の夢や目標をもっている児童が多い。
- きまりを守るという規範意識については、低い傾向がある。常に意識させる取組が必要である。
- 主体的に学習に取り組んだり、学習の「振り返り」を進んで行ったりしていると考えている児童の割合は高い。一方で、話し合いを通して、自分の考えをもつことが十分にできていないと感じている。話し合い活動の充実が必要である。
- テレビ・ゲーム等の接触時間は、高い傾向にある。
- 自主学習等の家庭学習に対して、高い意識をもっている。しかし、実際には十分な時間取り組めていない。
- 読書時間は全国に比べて不足しており、読書活動の充実が望まれる。

3. 調査結果から明らかになった課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組 (全校で・学年で・学級で)

- 朝自習等を活用した補充学習の充実を図り、基礎的・基本的内容や、課題の見られる内容を定着させるようにする。
- 授業や学級会等を通して、話し合い活動の充実を図る。
- 家庭学習の時間・内容等を提示したり、マイスター賞の取組を行ったりして、家庭学習の充実を図る。

② 家庭生活習慣等に関する取組

- 家庭学習やテレビ等の接触時間、読書時間について、家庭への啓発を図る。
- 中学校との連携を図り、校区の基本的なくらし・きまり等についてのスタンダードを決めることを目指す。